2020.11.18

大草

読書メモ

144.「儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇」ケント・ギルバート講談社（2017.2）

145．「孔子と魯迅」片山智行　筑摩選書（2015.6）

追加　インターネット（阿弥陀経と理趣経の経典一部紹介）

**＜「儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇」から＞**

以下は、ケント・ギルバート氏の意見。

〈韓国の日本観〉

1．中国の下に韓国、その下に日本がある。(日本は韓国の格下）

2．格下の日本が上に行くことに対する耐え難い屈辱がある。

3．日本に対し強いコンプレックスがある。

4．日本人は利他精神を持っているが韓国人は自利しか考えない。

5．韓国は儒教の国、日本は非常識の国である。

6．韓国には、孔子の儒教は、万古不易の道であるとの信念がある。

7．敬礼威儀を主張する儒教論理を重んじる。

8．（孔子の教え）父は子のため罪を隠し、子は親のために罪を隠して庇う。この罪を隠すことのなかに、正直の精神があるという。「公」より「私」を重んじる儒教思想がある。

9．「公」より「私」の家族愛を上におく価値観。私を重んじるため、法律を犯すこともよしとする風潮に変化した。

10．「騙すほうより、騙される方が悪い」と考え、嘘をつくことに罪悪感は無い。また公より私を優先するので、国家への忠誠心もない。

11．自分たちのことを小中華と自称し、永遠にナンバー2のポジションを得られると考えている。

12．儒教思想に基づく上下関係を絶対と考えて、日本が自分たちの上に行く事は受け入れがたい屈辱であるとする。

13．韓国は日本のおかげで清やロシアの属国的な地位から独立し、近代化を遂げることができた。この事実を認めない。

14．韓国は日本に独立戦争を挑み独立を勝ち取ったと教科書で教えている。(海外に臨時政府を打ち立てた「韓国光復軍」が連合国とともに日本軍と戦ったという)

15．第二次世界大戦で、朝鮮人が大日本帝国臣民として日本軍に加わっていたという事実には全く触れない。

16．日本は経済的にも文化的にも韓国の遥か上と世界的には認識してされているので悔しさが倍増。日本を貶めたくなる。慰安婦問題などの歴史的問題を第三国で日本の悪口を言いふらず戦術に出た。これを儒教的な事大主義からくる愚行とケント・ギルバートはいう。敵を恨み貶め続ける、自分は悪くない・悪いのは相手だとする、これらが儒教の思想である。

17．日本の伝統文化は、韓国が発祥であると言う説がある。例えば歌舞伎、ソメイヨシノ、茶道、折り紙、侍、日本刀、剣道、相撲、寿司、しゃぶしゃぶ和食など

18．ベトナム戦争中、韓国軍がサイゴン市に韓国兵専用の「慰安所」を運営していた事実に対して知らん顔でいる。

19．発展途上国が、先進国から援助をしてもらうのは当たり前だと考えているようである。韓国は、2008年通貨危機の時日本から3兆円の資金援助を受けていながら感謝の言葉は無い。外貨を融通してくれたのはアメリカ、中国、日本の中で日本が最後。日本はまだ出し惜しみをしている気がする。アジア諸国が日本にふがいなさを感じる所以だと韓国の企画財政部長が不満を述べたと言う。

20．儒教には、罪人は永久に罪人であり、許すと言う概念は無い。

21．侵略を行った犯罪者である日本は、自分たちに対して永遠に跪かなければならないという儒教に由来する意識がある。

22．韓国人の自尊心の異常な強さは、負けや失敗を認めたら根拠のない自信が崩壊してしまうというコンプレックスがあるからである。何でも他人のせいにしてしまう気質がある。

〈あとがき〉

・日本人は、自国の文化や歴史に誇りを持て。

・戦後、GHQによりウォーギルトインフォメーションプログラム（WGIP）によって自虐史観を植え付けられたマインドコントロール状況から目覚めてもいい頃である。

・自国の国家と国旗に敬意を表さない教職員がいる国は日本以外にはありえない。

・日本人は誰からも尊敬され愛される国民性を持った民族である。

・日本人の優れた倫理道徳観は、武士道精神による。例えば「公の心、秩序、名誉、勇気、潔さ、惻隠の情」など。

・日本人の美徳(誠実、寛容、礼節、勤勉、冷静）

〈本書を読んでの私の感想〉

・儒教の論理に囚われている韓国の存在に驚いた。どこまで真実なのか？

・儒教の論理をもう少し研究したい。

**＜「孔子と魯迅」から＞**

陳独秀（1879-1942ジャーナリスト、政治家、中国共産党設立者の一人）。

陳独秀は、儒教は硬直的で儒教思想に反するものを全て否定したことを厳しく批判した。儒教は支配者にとって都合のよい封建制度・専制政治を擁護する思想であった。

〈儒教が否定したもの〉

・新社会、新国家、新宗教などの新しいもの

・平等、人権、独立などの思想

・民権思想

・個人の人格・独立

・儒教思想に含まれてないこと全て

〈儒教が擁護したもの〉

・階級制度

・上下関係

・三綱（君臣、父子、夫婦の道）

・長幼の序

・朋友の信

・絶対服従

〈本書を読んでの私の感想〉

儒教思想は、道徳を重んじる思想であったが、その弊害も多かったことに注意する必要がある。江戸時代のような変化の少ない封建時代の為政者にとっては大変都合のよい思想であったといえよう。

価値観が多様化しており変化の激しい平等で民主的な現代社会においては、儒教思想の弊害の方が目立つように思われる。

（意見交換のテーマ）

・儒教の論理について。

　韓国人が論理的と聞いたが、儒教思想のなかにおける論理であるとのこと。儒教思想のなかにおける論理とはどのようなものであろうか？

～以下は、ご参考まで～（いろいろなお経があるものですね！）

**＜佛說阿彌陀經　インターネットから＞**

<https://ja.m.wikisource.org/wiki/%E4%BB%8F%E8%AA%AC%E9%98%BF%E5%BC%A5%E9%99%80%E7%B5%8C>

佛說阿彌陀經（抜粋）

姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯

爾時佛告 長老舍利弗 從是西方 過十万億佛土 有世界 名曰極樂 其土有佛 號阿彌陀 今現在說法 舍利弗 彼土何故　名爲極樂 其國衆生 無有衆苦 但受諸樂 故名極樂

又舍利弗 極樂國土 七重欄楯 七重羅網 七重行樹 皆是四寶 周帀圍繞 是故彼國 名曰極樂

又舍利弗 極樂國土 有七寶池 八功德水 充滿其中 池底純以 金沙布地 四邊階道 金銀瑠璃 玻瓈[11]合成 上有樓閣 亦以金銀瑠璃 玻瓈硨磲[12] 赤珠碼碯[13] 而嚴飾之 池中蓮華 大如車輪 青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光 微妙香潔 舍利弗 極樂國土 成就如是 功德莊嚴

又舍利弗 彼佛國土 常作天樂 黄金爲地 晝夜六時 而雨曼陀羅華[14] 其國衆生 常以淸旦 各以衣裓 盛衆妙華 供養他方 十万億佛 即以食時 還到本國 飯食經行 舍利弗 極樂國土 成就如是 功德莊嚴

復次舍利弗 彼國常有 種種奇妙 雜色之鳥 白鵠孔雀 鸚鵡舍利 迦陵頻伽 共命之鳥 是諸衆鳥 晝夜六時 出和雅音 其音演暢 五根五力 七菩提分 八聖道分 如是等法 其土衆生 聞是音已 皆悉念佛念法念僧 舍利弗 汝勿謂此鳥 實是罪報所生 所以者何 彼佛國土 無三惡趣 舍利弗 其佛國土 尚無三惡道之名 何況有實 是諸衆鳥 皆是阿彌陀佛 欲令法音宣流 變化所作 舍利弗 彼佛國土 微風吹動 諸寶行樹　及寶羅網 出微妙音 譬如百千種樂 同時倶作 聞是音者 皆自然生 念佛念法念僧之 心舍利弗 其佛國土 成就如是 功德莊嚴

又舍利弗 極樂國土 衆生生者 皆是阿鞞跋致 其中多有一生補處 其數甚多 非是算數 所能知之 但可以無量無邊 阿僧祇劫說 舍利弗 衆生聞者 應當發願 願生彼國 所以者何 得與如是 諸上善人 倶會一處 舍利弗 不可以少善根 福德因緣 得生彼國

舍利弗 若有善男子善女人 聞說阿彌陀佛 執持名號 若一日 若二日 若三日 若四日 若五日 若六日 若七日 一心不亂 其人臨命終時 阿彌陀佛 與諸聖衆 現在其前 是人終時 心不顛倒 即得往生 阿彌陀佛 極樂國土 舍利弗 我見是利 故說此言 若有衆生 聞是說者 應當發願 生彼國土

佛說阿彌陀經

『極楽の荘厳と名づける大乗経』

姚秦（後秦）の三蔵法師、鳩摩羅什が詔を奉じて訳す

その時、仏は、長老シャーリプトラに告げて言うには、「これより西方、十万億もの仏国土を過ぎて、世界があるが、それを名づけて極楽という。その仏国土には仏がおり、阿弥陀と号する。いま、現にましまして真理を説く。シャーリプトラよ。かの佛国土をなにがゆえに名づけて極楽となすや。その国の民衆は、もろもろの苦しみを受けず、ただもろもろの楽しみだけを受ける。故に、その佛国土を極楽と名づける。

また、シャーリプトラよ。極楽国土には、七重の欄楯（欄干のような石垣）、七重の羅網（とりあみ）、七重の行樹（並木）があって、みな、これ四宝（金・銀・青玉=瑠璃・水晶）であまねく取り囲む。故に、かの国を名づけて極楽という。

また、シャーリプトラよ。極楽国土には、七宝（金・銀・青玉=瑠璃・水晶・赤真珠・碼碯・琥珀）の池がある。八功徳（澄浄・清冷・甘美・軽軟・潤沢・安和・飢渇を除く・健康増進）の水が、その中に充満している。池の底には純ら黄金の砂が布かれている。池の四辺の階段は、金・銀・瑠璃・玻瓈（はり・水晶）からできている。階段の上には楼閣がある。また、金・銀・瑠璃（青玉）・玻瓈（水晶）・硨磲（しゃこ・琥珀）・赤珠（赤真珠）・碼碯（めのう）で、これは厳飾している。池中の蓮華は、大きい車輪のようだ。その上、青色の蓮華には青光、黄色の蓮華には黄光、赤色の蓮華には赤光、白色の蓮華には白光があって、さまざまな色の蓮華はさまざまな色で輝き、さまざまな色に見えている。シャーリプトラよ。極楽国土には、このようにすぐれた性質の荘厳を成就する。

また、シャーリプトラよ。かの佛国土は、天の音楽をかなで、黄金が地をなしている。昼夜六時（一日を昼夜に二分、それぞれをまた三分して、六時となる）に、曼陀羅華を雨降らす。その国の民衆は、常に清々しい朝に、おのおの花を盛る器をつかって、もろもろの妙華を盛り、他方の十万億の仏を供養し、昼の休息をもって、本国に還到し、ご飯をたべ、座禅の眠気を覚ますためゆきつもどりつする。シャーリプトラよ。極楽国土には、このようにすぐれた性質の荘厳を成就する。

また次に、シャーリプトラよ。かの国には、常に、種々のめずらしい雑色の鳥がいる。白鵠（白い鵝鳥）・孔雀・鸚鵡・舎利（鷺？）・妙音鳥（上半身は人、下半身は鳥:迦陵頻伽がりょうびんか）・共命鳥（ぐみょうちょう：頭が二つあり美声で鳴く。）がそれである。このもろもろの鳥、昼夜六時に、合唱する。その声は、五根（悟りを得るための機根。信根・精進根・念根・定根・慧根）・五力（信力・信仰、精進力・努力、念力・憶念、定力・禅定、慧力・智慧）・ 七菩提分（悟りに役立つ七つ。択法覚支・精進覚支・喜覚支・軽安覚支・捨覚支・定覚支・念覚支）・八聖道分（＝八正道）などのような法を教える。その土の民衆は、この声を聞き終わって、みな、ことごとく仏を念じて、僧を念じる。シャーリプトラよ。おまえは、この鳥は、実にこれ、罪報の所生（弱肉強食の世界における畜生）であるということだろうか。いや、そのように見てはいけない。それはなぜだろうか。かの仏国土には、三悪道（地獄・餓鬼・畜生）がない（死者の霊の行く世界がない、餓鬼の境地が存在しない）。その、仏国土には、三悪道の名は無い。言うまでも無く、実体は無い。このもろもろの鳥は、みな、これ、阿弥陀仏の法を説く声を広めようと欲して、仏の不思議な力で作りだされたものである。シャーリプトラよ。かの仏国土には、微風が吹動して、もろもろの宝行樹および宝で飾られた網は、微妙の声を出す。たとえば、百千種の楽を同時にかなでるようなものだ。この声を聞く者は、みな、自然に念仏・念法・念僧の心が生じる。シャーリプトラよ。かの仏国土には、このようにすぐれた性質の荘厳を成就する。

また、シャーリプトラよ。極楽国土には、民衆として生まれたものは、みな、これ不退転であり、その中に多く、一生補処（菩薩の最高位）がおる。その数は、甚だ多い。これは、算数のよく知るところではない。ただ、［菩薩の数を数えるだけでも］無量無辺である阿曽祇劫ほどを要する。シャーリプトラよ。民衆で極楽国土および聖衆のことを聞く者がいるならば、まさに思い立ってかの国に生まれることを願うべきである。それはなぜであるか。このようなもろもろの立派な人とともに、みな浄土という同じ場所であいまみえることができるからである。シャーリプトラよ。わずかな良い徳を積んでも、かの国に生まれることはできない。

シャーリプトラよ。もし、善男子・善女人がいて、阿弥陀仏の名号を説くことを聞き、その名号を心にとどめたもち考え、一日二日でも、三日四日でも五日でも六日でも、あるいは七日でも、一心不乱であるならば、その人の命が終わるときに臨んで、阿弥陀仏は、もろもろの聖衆（声聞と菩薩）とともに、その前に現在すであろう。この人の命終わるとき、心は、転倒しない。命が終わってすなわち阿弥陀仏の極楽国土に往生することができるのだ。シャーリプトラよ。私は、この利を見る。ゆえに、この言葉を説く、『もし、民衆がいてこの説を聞くならば、まさに、あの仏国土に生まれようと、願いを起こすべきだ』と。

仏の説きたまいし阿弥陀経

**＜大樂金剛不空眞實三摩耶經　般若波羅蜜多理趣経から＞**

<http://www.honkane.com/bukkyou-rishyukyou01.htm>

（理趣経の解説）

当然性欲も空なのですから、否定されるような実体を持たないので、肯定しても良いものとなります。空の思想によって価値観や相対的な見方を離れるためにあらゆるものが清浄になっていきます。空と言う言葉には否定的なニュアンスがあるので、ここでは清浄という肯定的な表現に変えて用いられているわけです。

注意すべきことは、セックスによって悟りの境地が得られると思ってはいけないとことです。性欲は否定されるものでは無いのですが、それは正しい修行を経て般若の知恵を得たものから見た表現だということです。決して無制限に性欲を肯定しているわけではありません。性欲の肯定的表現には2つの意味があります。1つは性欲を否定しようとして執着に陥ってしまうことを戒めること。2つ目は極端な例を挙げることで、あらゆるものが清浄であることに例外は無いことを強調することです。空の思想と現実肯定が結びついた究極の表現が17清浄句であるといえるでしょう。理趣経は、過激な表現が曲解されると困る為、真言宗では長い間、秘密教典とされてきました。

大樂金剛不空眞實三摩耶經　般若波羅蜜多理趣経（抜粋）

　　大興善寺三藏沙門大廣智不空奉詔譯

　　（通称：理趣経）

　　初中後善　文義巧妙　（そちゅうこうせん　ぶんぎこうびょう）

　　純一圓滿　淸淨潔白　（しゅんにちえんまん　せいせいけっぱく）

　　説　一切法淸淨句門　所謂　（せ　いっせいほうせいせいくもん　そい）

　　妙適　淸淨句　是菩薩位　（びょうてき　せいせいく　しほさい）

　　慾箭　淸淨句　是菩薩位　（よくせん　せいせいく　しほさい）

　　觸　淸淨句　是菩薩位　（しょく　せいせいく　しほさい）

　　愛縛　淸淨句　是菩薩位　（あいはく　せいせいく　しほさい）

　　一切自在主　淸淨句　是菩薩位　（いっせいしさいしゅ　せいせいく　しほさい）

　　見　淸淨句　是菩薩位　（けん　せいせいく　しほさい）

　　適悅　淸淨句　是菩薩位　（てきえつ　せいせいく　しほさい）

　　愛　淸淨句　是菩薩位　（あい　せいせいく　しほさい）

　　慢　淸淨句　是菩薩位　（まん　せいせいく　しほさい）

　　莊嚴　淸淨句　是菩薩位　（そうげん　せいせいく　しほさい）

　　意滋澤　淸淨句　是菩薩位　（いしたく　せいせいく　しほさい）

　　光明　淸淨句　是菩薩位　（こうべい　せいせいく　しほさい）

　　身樂　淸淨句　是菩薩位　（しんらく　せいせいく　しほさい）

　　色　淸淨句　是菩薩位　（しょく　せいせいく　しほさい）

　　聲　淸淨句　是菩薩位　（せい　せいせいく　しほさい）

　　香　淸淨句　是菩薩位　（きょう　せいせいく　しほさい）

　　味　淸淨句　是菩薩位　（び　せいせいく　しほさい）

　　何以故　一切法自　性淸淨故　（かいこ　いっせいほうし　せいせいせいこ）

　　般若波羅蜜多　淸淨　（はんじゃはらびた　せいせい）

　　金剛手　（きんこうしゅ）

　　若有聞此　淸淨出生句　般若理趣　（じゃくゆうぶんし　せいせいしゅっせいく　ふぁんじゃりしゅ）

　　乃至菩提道場　一切蓋障　（だいしほていとうちょう　いっせいかいしょう）

　　及煩惱障　法障業障　設廣積習（きゅうはんだつしょう　はっしょうげっしょう　せっこうせきしゅ）

　　必不堕於　地獄等趣　（ひっぷたよ　ちぎょくとうしゅ）

　　設作重罪　消滅不難　（せっさくちょうさい　しょうべっぷなん）

　　若能受持　日日　讀誦　（じゃくのうしゅち　じつじつ　とくしょう）

　　作意思惟　即於現生證　（さくいしい　そくよけんせいしょう）

　　一切法平等　金剛三摩也　（いっせいほうへいとう　きんこうさんまち）

　　於一切法　皆得自在　（よいっせいほう　かいとくしさい）

　　受於無量　適悅勸喜　（しゅよぶりょう　てきえつかんぎ）

　　以十六大　菩薩生　（いしゅうりくたい　ほさっせい）

　　獲得如來　執金剛位　（かきとくじょらい　しゅうきんこうい）

（理趣経の翻訳）

（毘盧遮那如来の説法は）初めも中間も終わりも全て善く、文章とその内容が巧妙で、純粋で円満していて清らかであり、すべての存在は清らか（空）であるという教えを説きました。

「つまりセックスの快楽(妙適)が清らかな境地、菩薩の境地です。

矢のように早く起こる性欲（欲箭）が清らかな境地、菩薩の境地です。

男と女が抱き合うこと（触）が清らかな境地、菩薩の境地です。男と女が抱き合うことで離れがたいと思うこと(愛縛)が、清らかな境地、菩薩の境地です。

男と女が一緒になって世界は自分たちのものと思うこと(一切自在主）が、清らかな境地、菩薩の境地です。

男と女が互いに見つめ合うこと(見)が、清らかな境地、菩薩の境地です。

男と女が抱き合って感じる喜び(適悦)が、清らかな境地、菩薩の境地です。

男と女がお互いを激しく求めること(愛）が、清らかな境地、菩薩の境地です。

異性を我が物として満足すること(慢)が、清らかな境地、菩薩の境地です。

異性のために身を飾ること（荘厳）が清らかな境地、菩薩の境地です。

異性を喜ばせて満ち足りること（意滋沢）が、清らかな境地、菩薩の境地です。

満ち足りて心が明るくなること(光明）が、清らかな境地、菩薩の境地です。

恐れがなく身体が安楽であること(身楽）が、清らかな境地、菩薩の境地です。

耳に聞こえる音（声）が、清らかな境地、菩薩の境地です。

鼻でかぐ香り（香）が、清らかな境地、菩薩の境地です。

舌で味わう味（味）が、清らかな境地、菩薩の境地です。

何故このようにいえるのでしょうか。それは、すべての存在は本来清らかであるからです。それを認識する究極の知恵（般若波羅蜜多）も清らかなのです。

金剛手菩薩よ、もしこのすべての存在は清らかであるという悟りを実現する句である究極の知恵をもたらす教えを聞けば、悟りの場所に至るまで、あらゆる悟りを妨げる障害から、貪り、怒り、愚かさといった煩悩の障害や仏の教えを聞くことを妨げる障害、悪い行いから生まれる障害まで、どんなに積み重ねようと必ず地獄などの迷いの世界に堕ちることはなくなります。たとえもっと重い罪を犯しても、その罪を消し去ることは難しくありません。もしこの教えを心に留めて毎日読誦し注意を向け考察することができたならば、今生きている一生において、あらゆる存在が平等であるという堅固な境地を得ることができます。さらにすべての存在が自由自在となるので、計り知れない楽しみや喜びを受け、金剛界の16人の偉大な菩薩の段階を体験して、毘盧遮那如来の金剛のように堅固な境地を体得します」と。

以上